

平成 19 年度身近な野生生物の観察事業について

1. 参加団体

7 月からホームページ上で参加団体を募集したところ、28 団体の応募申請があり、参加にあたる条件（観察調査を 3 回以上実施し、中間報告レポート及び最終報告レポートの提出）について合意された。

2. 観察準備会

観察準備会を平成 19 年 8 月 24 日（金）に開催した。選定した 28 団体の代表者に指導委員による助言が行われた。

3. 平成 19 年度スケジュール

平成 19 年

7 月 24 日～8 月 3 日	環境省ホームページ、事務局ホームページにて 観察調査参加団体を募集
8 月 6 日	参加団体決定
8 月 24 日	観察準備会開催
9 月 3 日	各団体から調査計画書を提出
11 月末	観察調査実施＜3 回以上＞
10 月 9 日	各団体から観察調査の中間報告レポート提出
12 月 3 日	各団体から観察調査の最終報告レポート提出

平成 20 年

1 月下旬	こどもエコクラブ全国フェスティバル参加 2 クラブを決定
3 月 29 日、30 日	こどもエコクラブ全国フェスティバル（北九州市で開催、（昨年度は横須賀市で開催））特設ブースにて報告
～年度末	平成 19 年度調査報告書とりまとめ

団体名簿

	団体名	人数		団体所在地	団体紹介
		メンバー	サポーター		
1	こどもエコクラブくしろ	12	3	北海道釧路市	1996年6月発足。地域にある自然をEco活動の場として、多様な活動を積極的に展開しています。2003年度からは、小・中学生の混合クラブとしてEco活動に取り組み、学年や年齢の壁を越えた「縦のつながり」が出来、中学生が小学生に優しく教える微笑ましい場面が活動の随所で見られています。
2	みずさわエコキッズ	41	3	岩手県奥州市	自治体(奥州市)が募集したクラブです。活動は、5年目を迎えています。今年は、小学1年生から6年生まで41人の登録がありました。豊かな自然がたくさん残っている市内小黒石地区や高清水地区を活動フィールドに、農業体験、自然体験を通じて身近な環境について学習しています。
3	ヤマメクラブ	16	6	群馬県甘楽郡	結成11年目、水生生物、せみのぬげがら、かいこの飼育観察など継続調査を中心に清掃活動やキャンプなどの体験活動も行っています。今年は環境ルネッサンスが小さな生き物にどのような影響があるのか調べています。
4	「平野の森」こどもエコクラブ	15	7	埼玉県狭山市	地域の雑木林で保全活動を行っている大人のボランティアグループと共に、これまでのように森の保全に必要な草刈、枯木の伐採、小道の腰掛作りなどの整備作業をしながら、動植物の観察をすることで森を知る楽しさを体験できればと願っています。6年前にエコクラブ活動に参加した子供たちも中学生になり部活動などで毎回参加できなくなりましたが、虫探しや森で遊ぶことが大好きな小学生が5名新たに加わったことで新しい発見ができそうで、みんなわくわくしています。
5	竹の子エコクラブ	41	16	埼玉県入間郡	地域の自然体験を中心に活動しています。小学校1年生から中学1年生までのメンバーを縦割りして3グループ作り、高学年のリーダーを中心にグループ活動で、楽しみながらの生き物観察や伝統農業文化である落ち葉掃きとさつま芋作りをしています。地域を楽しみ、地域の自然と人とのつながりを大切にしています。
6	リボン&パンジーこどもエコクラブ	3	4	東京都渋谷区	同じ保育園だったお友達やその姉妹で構成しているクラブです。近隣の公園では自然に親しむ活動やいきもの(トンボ・ハル)観察を行い、近隣の施設(植物センター)でも、季節の植物を観察をはじめ、染色や工作などをおこなっています。
7	野島自然観察探見隊	147 うち40人程度	34	神奈川県横浜市	横浜の海岸線約134kmのうち唯一残された自然の砂浜「野島海岸」を中心に、毎月1泊2日の野外活動を実施しています。また、夏休みには、長野市戸隠高原での10日間キャンプや春休みのスキーキャンプなど、楽しみながら身近な自然を探見しています。また、今年は「沖縄 久米島」でのキャンプも予定しています。
8	美しき地球号 依知南環境守り隊	15	1	神奈川県厚木市	メンバーは園児から高校生までいてにぎやかです。環境について小さい頃から意識するのがいいと思っています。まず、自分たちの住む依知南からそして最後には美しい地球全体にすばらしい環境を広めたいと活動しています。
9	桃李ふるさと探検隊	22	3	富山県下新川郡	平成17年4月29日(みどりの日)に、入善町立桃李小学校の環境活動に特に関心のある児童有志により結成されたこどもエコクラブです。身近な自然環境を生かしたフィールドワークを数多く実践し、自然環境保護や町の環境美化活動に取り組んでいます。
10	森のココペリ	35		山梨県上野原市	自然環境及び社会環境において、現在おきている問題を解決へ導くために、地域規模で問題を考え、地域から活動しています。持続可能な社会づくりに貢献することを踏まえ、「地域活性」「環境保全」「環境教育」を活動の3本柱に、自然体験プログラムの提供、地域資源の調査及び発掘、地域人材の育成などを通じて「農山村都市」及び「人と自然」をつなぐ、架け橋的な存在になることを目的とした任意団体です。
11	Discover Nature	8	1	長野県長野市	UNEPの子ども会議の時、フィンランドのW・Sに出張したのがきっかけで植樹をしその植樹の木のめんどろを見るために山に出かけている。山に行く度に、その山の植物や生物を教えてもらったりしている。ふくろうの巣箱をかけたのでふくろうの観察をしたいと考えている。
12	JNW	13	6	岐阜県多治見市	愛知県自然観察指導員連絡協議会 尾張支部の定例自然観察会の一つ定光寺自然観察会が発足して12年目を迎える。観察地は尾張藩藩主徳川義直公の廟がある愛知県瀬戸市の定光寺周辺で、参加者は瀬戸市内および近隣市町村に及ぶ。定光寺自然観察会は子どもの目線で生き物を観察するための子どもの参加者が多い。そこで、参加者のリーダーを中心に3年前にこどもエコクラブとして参加するようになった。現在高校生2年生をリーダーとして子どもたちの観察会が軌道にのるようになった。今後期待されるクラブチームだと思う。
13	有玉小学校 4年生	98	6	静岡県浜松市	有玉小学校では、総合的な学習の時間に「環境」について学習しています。3年生は、有玉水族館をつくり水の中の生き物を観察しています。5・6年生は、ホタルを飼育し、毎年6月には地域のみなさんをお招きして観賞会を開いています。4年生は、学校園の田んぼを中心に、水生生物の観察をしてきました。シッコやホリエンビ・ヤコなどの観察や飼育を通して、命のつながりや人間の生活と生き物との関係などを調べています。

団体名	人数		団体所在地	団体紹介
	メンバー	サポーター		
14 「あいちの海」グリーンマップ	9	10	愛知県名古屋	万博、愛知県館のグリーンマップ館で世界初の海のグリーンマップを作ろうということで発足した少人数のグループです。主に、南知多で活動していますが、ヨットマンや渥美半島でアカミカメの観察をしているメンバーもいますので、人脈を生かして愛知県下の海のおおよその全体図がつかみやすい状況にあります。昨年は渥美湾の六条潟グリーンマップを作成しました。
15 東広瀬環境レンジャー、東広瀬里山探検隊、いしがせ自然探検隊 3クラブ連合	36	3	愛知県豊田	東広瀬小学校4,5,6年生がクラブ活動の中で地区の河川や里山の調査活動を行っている、東広瀬環境レンジャー。主に里山の調査を行っている5年生のいしがせ自然探検隊。そして、外来種の調査を行っている6年生の東広瀬里山探検隊。3クラブの連合です。環境レンジャーと里山探検隊は昨年度に引き続いての応募です。昨年度は水生生物調査や土壌生物調査などの活動に取り組みました。本年度もすでに広田川や小峯川、矢作川に出かけ調査してきました。小峯川では、多くのカニや、ヨシホリなどの生き物を見つけました。
16 平成こども塾 自然体験グループ	60	20	愛知県愛知郡	長久手町平成こども塾は、小中学校を対象とした体験型の環境教育施設である。農体験、自然観察や保護体験、周囲の自然物(現在は周囲の竹を多用)を利用した創作活動(クラフトワーク)も行っている。 その中で、今回は自然観察および自然体験活動を行うプログラムをピックアップし、周囲の里山環境で水生生物を中心に、採集、観察を通して生態を学び、その生きものの棲む環境(外来生物を含む)についても考える機会とする。 川では小型魚類や水生生物を採集する楽しさを感じてもらおうと同時に生態や名前を知り、それらの生きものが棲める水について、水質調査を通じて環境を考えるプログラムをする。
17 大阪府立高津高等学校 生物研究部	14	3	大阪府大阪市	高津高校生物研究部は1976年に大阪城内濠でヒドラを発見したことから、調査を開始しました。 隔週日曜日にプランクトン調査をしています。この1年間の特徴は、平成18年8月に淡水クラゲを捕獲したこと、11月にアカミカメが大量に発生し、水質が一気に酸性化したことです。 10月には大阪府教育センター理科第二室の指導・助言を受け、大阪の河川環境調査に取り組み、2月には小中学生との交流会を経験しました。これらの取り組みの重要性や興味深さを分かち合えることを希望しています。
18 人を自然に近づける川いい会	28	5	大阪府茨木市	今の川に生きる生物たちを見て・知って・感じてもらうために、多方面から親水活動を展開。 老若男女を問わず活動を共にすることにより、川を中心とした地域コミュニケーションを図り、楽しい環境教育の現場として利用することにつなげています。
19 もっちゃんず	2	2	兵庫県明石市	自然観察が大好きで毎週末はイベントにも積極的に参加しています。特に夏は昆虫、水生動物、冬は野鳥を観察しています。
20 こどもエコクラブ グリーンキッズ	14	12	兵庫県芦屋市	樹木調査や地域清掃活動・緑化、資源ごみ等のリサイクルを中心に活動しています。メンバー1人1人ができるときに、できることをしています。毎年芦屋市環境パネル展で活動を発表しています。
21 広川町立津木中学校総合学習ゲンジボタル研究班	22	4	和歌山県有田郡	ふるさとのホタルと水環境を守る・環境省「こどもホタルレンジャー」のメンバーとして活動しています。全校生徒が22名の小規模校なので、学校と地域住民が一体となった取り組みを進めています。「知ることは、好きになること、守ること。～地域に広げよう！ホタル保護から環境保全～」をスローガンとして、「ホタルの幼虫放流会」「地域の夏祭りでのイベント」「広川町生涯学習講座での活動報告」「ホタル保護ポスターの全戸配布」「校内文化祭に高齢者の方を招いての活動報告」「公共温泉施設での研究成果の展示」等を行っています。このような活動このような活動を通して生徒と地域の方が「ふるさとの自然をいつまでも守りたい」との願いで活動を続けています。
22 にこちゃんず	3	2	岡山県赤磐市	私達、にこちゃんずは、家族5人のエコクラブです。自然観察を中心に活動しています。自然を大切にすること、自然をよく知ることから始まること、いろいろな自然観察会に参加しながら、自主活動を行っています。また、自然保護のボランティア活動にも、参加しています。
23 さぬきこどもエコクラブ	4	2	香川県高松市	高松市内の山や川をたのしくしらべて、そこからなにがわかるのかを学んでいきたいと思っています。昨年は善通寺市が活動の中心でしたが、今年は高松市内の川や山をしらべます。
24 善通寺こどもエコクラブ	25	5	香川県善通寺市	「地域の自然を知ろう」と自然のしくみや成りたち、人との関わりを学んでいます。山から海までの流域をとおしての森林や河川の生物、土壌、樹木などの環境調査をしています。地域の環境団体や他のこどもエコクラブと情報交換をしています。弘田川、金倉川については、8年前から野生生物調査をして、地域に情報発信しています。受賞歴は、第7回エコクラブ環境教育賞、平成15年度環境大臣賞環境保全功労賞、野生生物保護奨励賞、第17回「星空の街・青空の街」全国協議会会長賞・天の川賞-受賞などです。
25 口屋内小エコクラブ	4	4	高知県四万十市	四万十川の流域の山間部に位置する、全校児童6名の小規模校です。このうち、3年生以上の4名が中心となって活動しています。野生生物調べやクイズ活動は、全校で行います。昨年は、エコ賞を受賞できました。引き続き、地域の方の協力も得ながら、エコ活動を行っています。
26 カプトガニーズ	4	2	福岡県北九州市	小学6年生2名、4年生1名、3年生1名の女の子4名のこどもエコクラブです。小規模なこどもエコクラブなのでフットワークは軽いですが、大きな事はできないので自分たちで活動する他に、外に向けてメッセージを発信できるエコクラブを目指しています。

	団体名	人数		団体所在地	団体紹介
		メンバー	サポーター		
27	東植田探検隊	7	2	大分県大分市	平成元年から、近所の小学校を中心に身近な自然とのふれあいを楽しんでいます。テーマを与え、大人はできるだけ見守って、子供同士での活動を中心にしていきます。そこからお互いに考える力や自然とのふれあいの仕方を身につけていこうにできれば最高です。
28	阿室っ子E倶楽部	8	2	鹿児島県大島郡	宇検村立阿室小中学校の全校生徒、小学校1年生から中学校3年生までの8名で活動しています。昨年から結成されたこともエコクラブです。総合的な学習の時間と、毎週、火曜日の放課後に活動しています。稲作活動と水田の生き物たちの観察や、阿室川の生き物調べなど、昨年度から今年も引き続き行っています。他に、学校の近くの海岸の清掃活動やゴミ・エネルギー問題、奄美大島の絶滅危惧種や希少種についての学習などを行っています。

平成 19 年度 ExTEND2005 における身近な野生生物の観察事業について (事業の目的)

環境省環境安全課

1. 目的

- (1) 一般国民の生態系に関する関心・興味を養う。
- (2) 生態系の多様性を学ぶ。
- (3) 野生生物の異変の把握のためには継続的な調査、広域的な調査が必要であることを学ぶ。

2. 調査内容

(1) 参加団体について

次の条件を満たす団体を対象とする。

- ① 普段から生き物の観察を行っていること。
- ② 平成 19 年 11 月までの期間、3 回以上生き物の観察、報告を行うことができること。

(2) 調査について

目的に照らし、平成 19 年 11 月までに少なくとも 3 回以上の調査を実施すること。

(3) 調査計画について

9 月 3 日 (月) までに提出。

(4) 調査報告について

調査報告は、中間報告 (10 月 9 日 (火) まで) 及び最終報告 (12 月 3 日 (月) まで) の 2 回提出すること。提出にあたっては各提出様式に沿った形で報告すること。

(5) 専門家によるアドバイスについて

本事業では、調査に関する疑問等が生じた場合、7 名の専門家 (指導委員) から、アドバイスを受けることができる。アドバイスを求める場合は、事務局を通じて行うこと。

<指導委員>

青山 博昭	残留農薬研究所毒性部副部長兼生殖毒性研究室長
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
斉藤 秀生	自然環境研究センター
戸田 光彦	自然環境研究センター
花里 孝幸	信州大学山岳科学総合研究所教授
福井 行雄	広島県立広高等学校教諭
安間 繁樹	農学博士 (哺乳動物生態学研究者)

3. ExTEND2005 における「身近な野生生物の観察」事業の位置づけ

私たちの身の回りには、多様な生物種が生息しており、一方、私たちの人間活動によって様々な環境リスクが発生している。その一つに化学物質による環境リスクが挙げられる。

化学物質による環境リスクは人への影響だけでなく、生態系への影響も含まれている。これからは、人への影響だけでなく生態系への影響についても子どもたちや一般市民の方々に知ってもらう必要がある。

そのためにはまず、身近な野生生物をじっくりと観察することが必要となる。そこから、そもそも生物には多様性があるということ、そして生物個体は複雑な生態系のバランスの中で生きていることを体得してもらいたいということで、この事業はスタートした。体得してもらいたいポイントは下記の2点である。

- (1) 生物にはバリエーションがあり、多様で複雑な生態系の中で生物は生きていること。
- (2) 生物におけるバリエーションの要因としては、化学物質の影響も含め、様々な因子が考えられること。

この2点を体得し、きちんとした生物への理解をもった上で、化学物質が生態系に与える影響を考えることができる人を増やすことが、この事業の最終的な目的である。

内分泌かく乱化学物質問題のみならず生態系を視野においた、化学物質問題全般の原点である野生生物における異変把握のための身近な野生生物の継続的観察

〈参考〉

環境省ホームページ内に、この事業も含む、化学物質の内分泌かく乱作用に関する取り組み全体についての方針を記載していますので、ご参照下さい。

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND 2005-」

<http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2005/index.html>

平成 19 年身近な野生生物の観察事業準備会 議事要旨

I 日時：平成 19 年 8 月 24 日（金）10：00～16：00

II 場所：財団法人日本環境協会 第 1・2 会議室

III 出席委員：青山 博昭、井口 泰泉、斉藤 秀生、戸田 光彦、※敬称略
花里 孝幸、福井 行雄、安間 繁樹

参加クラブ代表者：28 団体中 20 団体出席

環境省：木村 博承、高岡 志帆、齊藤 弘毅

オブザーバー：川嶋 之雄（日本エヌ・ユー・エス（株））

事務局：塚腰 光男、大西 亮真、田代 幸子

IV 議題：

1. 野生生物の観察事業主旨説明
2. 指導委員及び団体自己紹介
3. 調査方法説明
4. 観察調査方法説明及び連絡事項
5. 指導委員からのアドバイス等

V 議事要旨

1. 野生生物の観察事業の主旨が環境省から説明された。
2. 各委員、各団体 5 分程度でパワーポイント等の資料を用いて団体の自己紹介が行われた。
3. 事務局より、調査書類、調査方法等についての説明が行われた。
4. 観察調査に関する質疑応答が行われた（別添 1 参照）。
5. 指導委員からの注意点・アドバイス等があった。（別添 2 参照）

（資料一覧）

- | | |
|------|--|
| 資料 1 | 観察指導委員名簿及び環境省・事務局名簿 |
| 資料 2 | 観察事業参加団体名簿 |
| 資料 3 | ExTEND2005 における身近な野生生物の観察事業について |
| 資料 4 | 身近な野生生物の観察のポイント |
| 資料 5 | 調査書類 5-1<身近な野生生物の観察調査実施要領>
5-2<計画シート>
5-3<中間報告シート>
5-4<調査票>
5-5<レポート用紙①・②>
5-6<アンケート用紙> |
| 参考 1 | 身近な野生生物の観察調査 Q&A |
| 参考 2 | メーリングリスト開設のご案内 |
| 参考 3 | 観察調査キットの送付について |
| 参考 4 | スポーツ安全保険案内パンフレット |
| 参考 5 | 熱中症保健指導マニュアル |
| 参考 6 | 平成 18 年度身近な野生生物の観察報告書 2 種※昨年度参加団体は会議後回収。 |

※その他：参加団体からの提供資料。

観察調査Q&A

Q.最終報告のまとめ方は、教育的観点でプロセスを大事にするということで子どもたちが間違っても自由に書かせるのがいいのか、サポーターから指導して考察的観点で書いたらいいのか？

A.(環境省)教育的観点により参加者が自由に記載することも大事だが、指導委員に確認いただく手前、代表者は記載方法について参加者に指導いただきたい。指導委員にコメントをもらえるのは貴重な機会である。

Q.メーリングリストについて昨年度あまり活用していなかったようだが、音頭をとったり調整を図ったりはしないのか。

A.(環境省)今のところML上で事務局が調整をすることは行っておらず、各団体の方にご自由に活用して欲しい。要望が多ければ検討していく。

Q.1回ごとの観察レポートを提出する形式になっているが、これでは継続的な変化に関する考察を書きづらい。また前回からの変化がないときはどうすればいいのか。

A.(事務局)継続的な観察の中で確認された変化については是非記載いただきたい。また繰り返し調査していくことに意義があるので変化がなくとも調査結果として記載いただいてOK。

Q.セミの抜け殻調査結果報告は40日分1回にまとめて書いてもいいか？

A.(事務局):1回にまとめていただいた方が良い。表などにまとめて書いて欲しい。

Q.:昨年の考察も含めていいのか？考察のレポート用紙を増やすべきでは？

A.(環境省)調査票やレポート用紙②に書いていただければと思う。

A.(委員)レポートを見る立場から言うと、こどもの観察日記という形ではないもので、経年経過や、個体数、その同定、考察なども書いて欲しい。4、5月から始めている場合はそれも付けていただきたい。

Q.1. カワニナとホタルの幼虫を他の場所で放流したいため提供してほしいとの連絡があるが、他の場所に移動させることが生態系に及ぼす影響は如何か。

2. 大洪水時に、ホタルが少なくなっている。生態系にどのような変化が起こっているのか？カワニナ等水生生物も少なくなっている。

3. 流しそうめんの樋のような装置を用いて、洪水時の水流がカワニナに及ぼす影響をはかる実験を行おうと思うが如何か？

A.(委員):1. ホタルは移動させないのが基本スタンス。人手によって強制的にそのようなことをするのは、生態系を崩すことになる。ご当地のカワニナを増やす努力をしてくださいと説明していただければと思う。

2. 天災は、自然の流れの中で起こっている。これは、自然の摂理なので、おそらく河川生物が急にいなくなるということもありえるが心配なくてOK。

3. 実験はいいが、自然の複雑さとは異なる単純化された結果が出で来るので工夫が必要。

Q.壁新聞とはどんなものか？

A.(事務局):こどもエコクラブの1年の活動成果として、壁新聞を定型の大きさにまとめることになっている。こどもエコクラブの全国フェスティバルの中のプログラムにこの壁新聞セッションが入ってくるので、全国フェスティバルに参加する代表クラブには壁新聞を作成していただく。

Q.アンケート用紙質問項目は難しい。こども用はないのか？

A.(事務局):環境省と検討して対応する。

Q.:希少種の棲息場所など、公開しないで欲しい情報もあるのだが、この報告書は基本的にクローズドなのか？

A.(環境省):報告書は、公開の委員会や国会図書館に提出し、公開の資料となるので掲載可能な写真を使用して欲しい。昨年度の報告書では、地図を非掲載にする等して、事務局側で配慮した。

Q.:提出する各シートはメールで送ることも可能ということだが、フォーマットは事務局に問い合わせればいいのか？

A.(事務局):HP で一式ダウンロード可能なので、HPをご確認いただきたい。HPからのダウンロードが難しい場合は、事務局に問い合わせで欲しい。

Q.報告書を正確に書いて欲しい。こども報告書の P22 の写真の説明にドジョウと書いてあるが、写真を見たところドジョウではないし、提出した団体は「提出したシートにこのような記載をしていない」と言っている。P30 の清水川のルビが「しみずがわ」と書いてあるが、正しくは「しょうずがわ」である。P57 の戸田指導委員のコメントでスケッチが力作とあるが、スケッチのイラストがないなどミスがある。最終確認を取っていただきたい。

A.(事務局)大変失礼した。以後気をつける。

Q.セミの抜け殻調査の際、場所によっては取れる個数が違うのだが方法に問題があるのか。

A.(環境省)複数の地域を同時に調査するのもいいし、特定の地域を継続的に調査するのもいい。今のこどもたちの段階にあわせて調査を継続していただきたい。

A.(委員)まず目的は何かをきちんと定め、それにそった観察・考察を行って欲しい。ある一定の面積、ある一定時間、一定距離、など定量的に出来る範囲で比較を行うと良い。可能ならば季節変化をみると良いと思う。

Q.干潟観察をしているが生き物が自分で泳いでくるのか、人の手によって移動しているのかが不明なのだが。

A.(委員)自分の住みやすい環境に定着する。あさりのように泳げない生物は自らの力で移動するとは思えない。

A.(委員)ハツカネズミは人が移動させたのか、自ら移動してきたのかは未だにわかっていない。だからこそ、それを考察するのが面白い。難しいだけに面白いということも、参加するこどもたちに体感してもらいたい。

Q.セミのメスが多くなってきているのは農業と関係しているのか考察するため、他の場所でも比較用に観察調査を行っている。その結果、セミのメスの数が場所によって違う結果が出た。15分で60匹近く見つかる場所と15分で3匹くらいしか見つからない場所がある。データとしての信頼性は如何か？また標高はどのように調べればいいのか？

A.(委員)調査の目的は？数を比較したいのであれば、清掃なども考慮しないといけない。

A.(委員)オスメスの比較は大変難しい。始めは、15分ずつ複数箇所で定量的調査を繰り返して行い、地域でなにが起こっているのかを考察するといいい。アブラセミとニイニイゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ等のセミの種類観察も調査結果の1つである。セミのオスメスが偏っているというデータは珍しいので、その調査をするのは面白い。標高は市販の地形図や日本地図センターのHPでわかる。

Q.ふくろうは数が少ないので、個体数量観察は調査に含むことができないのだがそれでもいいのか？

A.(委員)猛禽類は観察の対象としては大変難しく、時期的にも、難しい。2・3月だと、一定時間、一定面積、一定距離で鳴く声、落ちて羽を観察調査するということもできる。

A.(委員)特定の種・個体を追いかけていくことも大事。個体識別から入るのもあり。数は少ないなりに、行動の変化、行動範囲を調べるのもいい。ふくろうのペリット(嘔吐物)を分析するのもいい。

指導委員からの注意点・アドバイス

・皆さんの方がフィールドでの生き物についてはよく知っている。実験室の中で、統計的に考える確率論の立場からの助言などでは、役に立てるかと思う。

・P55 の番のルビは「ばん」でなく「つがい」。報告書など事務局はミスをしないように注意して欲しい。

・それぞれのエコクラブの状況で判断した方がいいと思うが、報告書用には、少しがんばって考察文章をかいてもら方がいいと思う。

フィールド調査に関してなにか助言が必要であれば協力する。

・その調査区域の昔の状況を、地元の人に聞く、昔の地図を調べるなど、長めの時間スケールを取り入れるということも考えてみて欲しい。

・一般に多くの方は、水はきれいであればいいと思っているが、濁っているのは有機物・生物がたくさんいるということである。生き物を大事にするためにもっと清掃すればいいということはない。ホタルを積極的に放流するというのは、生態系のバランスを崩すことにもなるのでそれも知っていて欲しい。

・生態学の分野は結果が出るまで大変時間がかかる。子どもたちの興味を継続させることは難しいが、成人しても生き物に興味を持ち、特定の生き物に関してスペシャリストになるような興味の持たせ方をしてほしい。

・子どもたちが楽しみながら、一人でも多くの参加ができるようにして欲しい。できるだけ子どもにまとめて欲しいし、考察などもして欲しい。観察調査のプロセスも大事ではあるが、結果が間違った覚え方をしていたら困るので、委員の立場から間違っている場合は訂正していただきたい。

こどもエコクラブ全国フェスティバルについて

各地で展開されている活動の紹介を通じ、こどもエコクラブ事業の拡大を図るため、毎年、こどもエコクラブの1年間の活動の締めくくりとなる全国フェスティバルが開催されている。

I 平成 18 年度の全国フェスティバルは、以下のとおり行われた。

平成 18 年度の全国フェスティバルでは、全国のこどもエコクラブ（約 4,800 クラブ）のうち、壁新聞を応募して各都道府県から選ばれた 46 クラブ、神奈川県内の 10 クラブ、野生生物の観察隊代表 3 クラブの計 59 クラブが集まり、交流を深めた。

1. 期 日 2006 年 3 月 24 日（土）、25 日（日）
2. 会 場 神奈川県横須賀市 横須賀芸術劇場、神奈川県立三浦ふれあいの村、長井海の手公園ソレイユの丘
3. 主 催 こどもエコクラブ全国フェスティバル in よこすか実行委員会（環境省、神奈川県、横須賀市、(財)日本環境協会）

4. プログラム

【1 日目 3 月 24 日（土）】

歓迎セレモニー
交流プログラム
壁新聞セッション
宿泊（神奈川県立三浦ふれあいの村）

【2 日目 3 月 25 日（日）】

オープニングセレモニー
ステレンジャーショー
ExTEND 2005 野生生物の観察事業特別講演会（さなかクン）
壁新聞展示
クロージングセレモニー

5. 野生生物の観察事業

- (1) 野生生物の観察事業の代表 3 クラブ（「みずさわエコキッズ」、「平野の森」こどもエコクラブ、「カブトガニーズ」）を派遣した。
- (2) 代表 3 クラブは壁新聞を発表した。
- (3) ExTEND 2005 野生生物の観察事業特別講演会（さなかクン）

II 平成 19 年度の全国フェスティバルは、平成 20 年 3 月 29(土)、30 日(日)に北九州市で開催予定。野生生物の観察事業では、下記を予定している。

- (1) 野生生物の観察事業の代表 2 団体を派遣。
- (2) 代表 2 団体は壁新聞を発表。
- (3) ExTEND 2005 野生生物の観察事業ブース出展及び、講演。